

# 「柏崎の水」

## 土合 不動院のいぼ清水

伝教大師（最澄）直筆といわれる不動明王掛軸と、その伝説を今に残す土合の不動院。その本堂へ続く正面の階段をのぼり左手奥へ進む。そこに、数体のお地藏様に見守られ静かに湧き出す「いぼ清水」がある。

「いぼ清水」の呼び名は、手足にできた疣をこの清水で洗うと消えるように治る、という言い伝えに由来している。また、伝教大師が加持した清水と伝えられていることから、「白川風土記」「柏崎文庫」では「加持水」との表記も見える。

いぼ他にも、安産に靈験あらたかと伝えられている。また、眼病にも効験ありといわれ、それを示す次のような伝説が残っている。

『昔、土合の岩野山に無量寿寺という寺があり、拘留孫仏が安置されていた。しかし、無量寿寺は宝暦年間（1751～1763）に焼失してしまった。幸い拘留孫仏だけは無事だったため、不動院を無量寿寺と合併させ、拘留孫仏をご本尊とすることになった。時の不動院のご住職は、この尊い拘留孫仏を広く世間に開帳するため村々を廻った。

曽根村（現在の新潟市旧西川町）で開帳が行われたときのこと、眼病を患った老婆がお参りに訪れた。



不動院のいぼ清水 中央の凸状の部分が水汲み口

老婆は失明寸前であり医者にも見放されていたため、目を治したい一心で、開帳の7日間毎日欠かさずに祈願した。すると、7日目の夜に拘留孫仏が老婆の夢枕に立ち、こう告げた。「土合の不動院の境内に清水が湧き出している。これは伝教大師の加持の水であるので、その水で目をたでれば、きっとよくなるであろう」

老婆からこの話を聞いたご住職は、さっそく清水を老婆のもとへ送った。ひと月後、老婆は不動院を御礼参りに訪れた。そして、眼病が全治したことを報告したという。』

古来よりその効能を広く知られ、信仰の対象であったいぼ清水は、現在でも変わらず敬われている。上掲の写真撮影時には、信心ある人々によるものか、幾つもの花が供えられていた。また、先代のご住職の時代には、この清水を汲んで風呂を沸かし近隣の住民に入浴してもらっていたという。

たでる…患部に薬湯や湯気をあてて蒸すこと



### 参考文献

- 「西中通のあゆみ」西中通のあゆみ編集委員会（224 ニ） 「柏崎のむかしばなし」深田信四郎 著（388 力） 「新潟県寺院名鑑」（180 Nシ）  
「柏崎市伝説集」柏崎市教育委員会（388 K 材） 「昔の話でありました(3)」深田信四郎 著（388 力） 「白川風土記」広瀬典 著（224 ヒロ）